

BOOK REVIEW

これからの服薬指導ハンドブック 患者対応力を高める知識と技法

著・編：大井 一弥

A5判／240頁／定価：3,190円（本体2,900円＋税10%）

発行：講談社（2024年12月）

薬剤師にとって、服薬指導は業務の根幹、だからこそ、これらに関する数多の書籍を手にすることができますが、ここまで患者のライフステージやシチュエーションを想定してきめ細やかに書かれたものがかつてあったでしょうか。さらに、業務の土台となる最新の医療状況に則り、添付文書を読み取りどう伝えるのかの方法や、オンライン服薬指導業務の流れ、さらには、長期収載品の選定療養費についての対応に至るまで、幅広い記載があり、まさに「これからの」服薬指導ハンドブックとなっています。また、副題にある「患者対応力」は、患者が納得し、薬剤師が最善の医療を提供するために大切な力であることは言わずもがなです。しかし、実際に患者を目の前にすると、患者の背景の違いはもちろん、その場の混雑した時間帯などの環境の違いによって、どう対応すればよいかの判断を瞬時に行う必要があるのも事実です。この本ではそういったさまざまな状況について書かれ、さらにどう考えるべきかが説かれており、新人の薬剤師はこれからの準備のために、また、ベテランの薬剤師は、改めて自身の服薬指導を見

直すために、全薬剤師が手元に持ってそのつど読み直すのに最適な1冊です。サイズ感もよく、ハンドブックと命名されているように、常に携帯しやすく、かつ読みやすいのも特徴です。

今後、加速度的に少子高齢化が進むなか、医療DXの推進や専門薬剤師としての資格取得、チーム医療における薬剤師の役割発揮など、ますます薬剤師に求められる職能の幅が広がっています。限られた時間のなかで、患者にとって不利益のない最良の服薬指導を継続していくために、この本を何度でも読み直しながら、患者対応力を高める知識と技法をぜひとも習得していきましょう。そして、さまざまな経験を重ねていながら、常に患者の心に寄り添う気持ちを大切に、成長する薬剤師であってほしいと心から願っています。

たんぽぽ薬局株式会社 松野 英子

文：講談社提供